

介護保険サービス自己評価表

(評価期日)

令和5年8月1日

(事業者名)

社会福祉法人 友愛

(事業所名)

カナリヤグループホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤグループホーム ユニット 逢
所在地	滋賀県守山市三宅町833
自己評価作成日	令和5年8月1日
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で支援の制限される中でも、外出支援の散歩などは利用者様の楽しみでもあるので、継続して行えるようにしている。
 面会制限がある期間でも、家族様には少しでも利用者さんの様子を伝えられるように、LINEなどを上手に活用し、日々の様子を伝えるようにしている。
 1日の中で利用者様が日中の活動に参加できるよう、1人ひとりにあったレクリエーションを提供するよう工夫している。

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検し、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 2. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 3. ほとんど掴んでいない <input type="radio"/> 4. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

自己評価

項目番号が塗りつぶされている所はユニットごとの評価
 そうでないところは両ユニット共通になります。

「わからない」ところは、聞く・調べるなどしてすべてを埋めること！
 (それも学びにつながります)

ユニット逢

自己評価	項目	自己評価
		2023年8月
I. 理念に基づく運営		
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員が実践するよう心掛けているが、コロナ禍や人員不足により、十分な支援に繋がられていない。
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、地域との関り、交流はほとんどない。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とはなかなか交流の場が無いため、不十分だが、実習生などを受け入れることで、発信は出来ている。
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議が行われていなかったが、書面にて報告は行っていた。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書などの報告のみやり取りを行っているも、密に連携は取れていない。
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の関りの中で、スピーチロックやセーターに頼らないケアについては全職員が常に心掛け努めている。 玄関の施設に関しては、現在故障しているものもあり、チェーンロックを行っている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修などで、定期的に学ぶ機会があるため、防止に努めている。

外部		項目	自己評価		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		学ぶ機会が少なく、理解なども不十分である。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約時、家族さんからの不安点や、疑問点を聞けるよう努めている。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		日常的に利用者や家族が話しやすいよう日頃から関係性作りを努めている。 利用者や家族の意見、思いは職員同士で周知するよう実施している。		
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		個々で面談の時間も設けている。 日頃から話しやすい環境作りを努めている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		必要な事柄は全体に周知を図り働きやすい職場づくりに心掛けていくが、不十分である。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		外部への研修などには行っていない。 人員不足などもあり、十分な人材育成が出来ていない。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		職員が個々で研修などに行き関りがあるが、不十分である。		

自外 己部	項目	自己評価 2023年8月
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの段階から、家族への聞き取りなどをし、調査で本人さんと関わるなかで、情報収集し、職員間で話し合い安心して支援出来るよう心掛けている。
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、家族への聞き取りなどを行う中で、困っている事や、望んで居られる事を聞くようにしている。
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、しっかりと話を聞き、サービスの導入に努めている。また、他に利用出来るサービスや相談機関も提示しながら話すようにしている。
18	○本人と共に過ごししえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を基本的に利用者様と一緒にしているも人員不足の為、不十分である(料理・洗濯・掃除など)
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを使用して毎月一回は写真を送り日々の様子を伝えていく。面会や来訪された際にも日々の様子を伝えていく
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人全てを知ることは不可能だが、家族様や身内様との関係が途切れないように電話やLINEを利用している
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で一緒にゲームをしたり、調理をされたりして楽しませられている。理解することが難しい利用者様には職員が間に入って、利用者様同士の関係がうまくいくよう支援している。

自己評価	項目	自己評価	2023年8月
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設に移られても、アルバムを渡したり家族様が分からないことを連絡して来られたら相談や支援できる体制を作っている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	<p>(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の暮らしの中で利用者様の思いや希望を把握出来るように努めている。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族様や本人様に生活歴や生活環境をきき把握できつように努めている</p>	
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>介護記録に利用者様の心身状態の事や過ごし方等が記入されているので確認し、把握出来るようにしている。</p>	
26	<p>(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様を担当している職員が3ヶ月に1回、モニタリング作成しユニット会議で他職員と話し合い、ケアマネージャーに提出し、介護計画を作成している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録には日々の様子やケアの実践結果・気づきを記入し、他職員と共有している。実践や介護計画の見直しは1ヶ月に1回行っているユニット会議で職員と話し合い見直しを行っている。</p>	
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>面会時・来訪時・INEでの面会や写真付きで状態の報告をするなど現状に合わせ柔軟に対応している。</p>	

自己評価	外部	項目	自己評価 2023年8月
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめることができるよう支援している	コロナ対策を行いつつ、地域の行事に参加して楽しめるよう支援を行うことができている。(祭りや外部からの出し物等)	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医が任診をされたり、家族の送迎で受診にいけなかったりされたり、本人と家族の希望で決めていただいている。様々な理由で受診に行かなくてはならない時は看護師・家族様と相談をし、サマリーを作成して医師と連携を取っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日頃ケアで看護師に相談し常に指示を仰げるよう努めて居る。	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がなるべくスムーズに進むよう、医療機関と密に連絡を取り合っており実施している。	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される段階で終末期の家族の意向は聞くよう努めている。 家族や本人の思いに出来るだけ寄り添いケアに繋げている。 主治医や看護師、家族、職員で密に連携を取りながら終末期ケアを実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の部署内研修で、事故検討等話をする場合は設け、事故を防げるよう努めている。	
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、入居者の安全を守るようになっている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己 外部				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳やプライバシーを損なわないよう言葉遣いや対応に心掛けています。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を察知し、なるべく自己決定していただけるように支援しています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいかを本人様に聞いたり、職員間で情報を共有している。		
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	身だしなみなどとして清潔には気を付けている。母の日や誕生日で化粧をするなどの企画はしている		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自立されている利用者の方中心になっ まっています。支援出来ています。 行事の特別メニューやお誕生日の特別メニューでは、好みを聞きながら応えられるよう努めています。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が考えたメニューの食事となっている。咀嚼や嚥下の状態に合わせて刻んだり、ペーストにしたりして提供している。食事量と水分量は記録に残している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に 応じたケアをしている	起床時や毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアを行うことができている		

自己評価		自己評価 2023年8月	
外部	項目		
43	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄の自立が難しい利用者様には時間を決めてトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄していただけるよう支援している。
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる		水分量や水分提供の時間を増やしたり、下剤を使用したりなど便秘の予防に取り組んでいる
45	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		週2回の入浴を行っている。利用者様一人ひとりのスタイルで入浴できるように努めている。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		自立されている利用者様は休憩したいときに居室に戻り休憩をされている。体調不良だったり、寝不足の利用者様がいたら、声掛けして居室で休むよう促している。
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の目的や副作用、用法については看護師や主治医と相談等行い、指示を仰いでいる。
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		楽しみごとや気分転換はレクリエーションと参加していただいていることの方が多し。好きな食べ物・飲み物は利用者様に聞いて誕生日やイベントに提供している。
49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している		散歩やドライブも外出支援として取り入れているが、職員不足や天候の都合だったり、日によって行えていない。地域の方々の交流は少しずつではあるがコロナ対策を行いつつ進んでいる。

自己 外部	項目	自己評価 2023年8月		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自己管理することが難しい為、職員が管理をしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や利用者様に希望により、テレビ電話を行っている。また、家族様と利用者様で手紙の交換も行っている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快や混乱・刺激がないよう配慮している。季節の塗り絵や飾り付けなどを行っている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りこなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えを行ったり、レクリエーションを行ったりしながら利用者様同士が思い思いに過ごせるように努めている		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居される際に、馴染みの物を持ってこれられ居室においている。ADLにあわせてベットや家具の配置を考え変えている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全てではないが、トイレや廊下などに手摺をつけており、利用者様の居室に必要な方だけタッチアツプ手摺を設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤグループホーム ユニット 結
所在地	滋賀県守山市三宅町833
自己評価作成日	令和5年8月1日
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】
 コロナ禍で支援の制限される中でも、外出支援の散歩などは利用者様の楽しみでもあるので、継続して行えるようにしている。
 面会制限がある期間でも、家族様には少しでも利用者さんの様子を伝えられるように、LINEなどを上手に活用し、日々の様子を伝えるようにしている。
 1日の中で利用者様が日中の活動に参加できるよう、1人ひとりにあったレクリエーションを提供するよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価

項目番号が塗りつぶされている所はユニットごとの評価
そうでないところは両ユニット共通になります。

「わからない」ところは、聞く・調べるなどしてすべてを埋めること！
(それも学びにつながります)

ユニット結

自己評価	項目	自己評価
I. 理念に基づく運営		
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員が実践するよう心掛けているが、コロナ禍や人員不足により、十分な支援に繋がられていない。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、地域との関り、交流はほとんどない。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とはなかなか交流の場が無いため、不十分だが、実習生などを受け入れることで、発信は出来ている。
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議が行われていなかったが、書面にて報告は行っていた。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書などの報告のみやり取りを行っているも、密に連携は取れていない。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の関りの中で、スピーチロックやセンターに頼らないケアについては全職員が常に心掛け努めている。 玄関の施錠に関しては、現在故障しているのもあり、チェーンロックを行っている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修などで、定期的に学ぶ機会があるため、防止に努めている。

自己外部	項目	自己評価	2023年8月
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	学ぶ機会が少なく、理解なども不十分である。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族さんからの不安点や、疑問点を聞けるよう努めている。	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者や家族が話しやすいよう日頃から関係性作りを努めている。 利用者や家族の意見、思いは職員同士で周知するよう実施している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々で面談の時間も設けている。 日頃から話しやすい環境作りを努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な事柄は全体に周知を図り働きやすい職場づくりに心掛けているが、不十分である。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修などには行けていない。 人員不足などもあり、十分な人材育成が出来ていない。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が個々で研修などに行き関りがあるが、不十分である。	

自己評価	項目	自己評価 2023年8月
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの段階から、家族への聞き取りなどを、調査で本人さんと関わるなかで、情報収集し、職員間で話し合い安心して支援出来るよう心掛けている。
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、家族への聞き取りなどを行う中で、困っている事や、望んで居られる事を聞くようになっている。
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、しかくりと話を聞き、サービスの導入に努めている。また、他 ^々 に利用出来るサービスや相談機関も提示しながら話すようにしている。
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係性を築く為日々の会話やケアの中で思いをくみ取るよう努めている
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主任やリporterだけでなく家族様と話すときやLINEなどでご本人様の日々の様子や変化を伝える機会を設けている。認知症の進行や身体状態の悪化時は家族と相談しながらケアを進めている
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会制限が外出制限があり行えないケースが殆どである
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間を利用し家事やレクリエーションを通じて利用者様同士の関係性の構築に努めている

自己評価	項目	自己評価 2023年8月	
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>外部の施設に転居された方などはアフターケアまで行き届かないが同施設内での転居になれば定期的な面会や職員との情報共有でケアに努めている</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	<p>(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでの生活歴や家族様から得た情報をもとにGHで出来る範囲のことは実現するようになっている。またケアプラン更新の際には本人様にニーズを聞きプランへ反映するようになっている</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前にご本人様、家族様に調査を行い聞き取りをしている。またフェイスシートの詳細な記入を心掛けている</p>	
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一日の過ごし方はある程度流れが決まっております。ルーティン化している。したいことをしたい時間を実現する事は出来ていない</p>	
26	<p>(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送りでご本人の変化やニーズの話し合いを行ったり、家族や主治医へ相談し会議で決議を行うようにしている</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録や申し送りで本人様の情報共有は行っている</p>	
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>心身に向き合いその時々でGH内で出来る事は迅速な対応を行っている。</p>	

自己評価		自己評価	
項目		2023年8月	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		地域資源の活用はコロナ禍になり殆ど出来ていない。職員一人一人の知識不足も著明である。
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		入居時にかかりつけ医がいるのであれば継続している。状態悪化などの理由で受診が難しくなれば往診医の紹介もしている
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		日頃ケアで看護師に相談し常に指示を仰げるよう努めて居る。
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入退院がなるべくスムーズに進むよう、医療機関と密に連絡を取り合っており実施している。
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入居される段階で終末期の家族の意向は聞くよう努めている。 家族や本人の思いに出来るだけ寄り添いケアに繋げている。 主治医や看護師、家族、職員で密に連携を取りながら終末期ケアを実施している。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		月1回の部署内研修で、事故検討等話をする場合は設け、事故を防げるよう努めている。
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		避難訓練を実施し、入居者の安全を守るようになっている。

自己部	項目	自己評価	2023年8月
36	<p>(14) その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>○一人ひとりの尊重とケアバイザーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやケアバイザーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>きつい口調やスピーチロックは現場で見られる。慢性化しないよう定期的な施設として接遇の研修を行ったり必要時はユニット内で話し合い、研修を行っている</p>	
37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自発的に発言されない方には何事にも選択肢のある声掛けを心掛けている。 自ら思いを伝えられる方に関しては出来る限りで応じている</p>	
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れがある程度決まっております 一人ひとりに合わせて希望に沿った過ごし方に出てくるわけではない。</p>	
39	<p>○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している</p>	<p>整容や化粧は習慣化されている人には出来るようにしている。重度化されていたりされない方に対しては最低限の身だしなみは整えられるよう介助している</p>	
40	<p>(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>現在人員不足から食事作り中止し配食の提供となっている。汁物は作っているが毎回思いを聞いたり一緒にいる事は出来ていない。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている</p>	<p>毎食時と1日2回のコーヒーで1L以上の水分摂取になるよう努めている</p>	
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に合わせたケアをしている</p>	<p>しっかりとした口腔ケアは出来ていない。うがいのみになる時もある。</p>	

自己評価	項目	自己評価 2023年8月
43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>1人1人に合ったタイミングでのトイレ誘導を行ったり、トイレの訴えがある際はそのタイミングで誘導している</p>
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日10分程度の体操を2回行っているが運動不足で便秘解消までは出来ていない。排便コントロールは水分摂取と下剤調整にて行う事がほとんどである</p>
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている</p>	<p>入浴日、入浴時間は決まっておりが本人の希望に添えているとは言えない。人員不足でやむを得ず職員主体となっている</p>
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は個々で好きなように過ごされる事が多い。また、就寝に関しては消灯時間などは決めずご本人から訴えがあるまで好きに過ごしてもらっている</p>
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服の詳細の紙は全職員がいつでも閲覧できるようにしているが全てを把握する事は出来ない。新しい薬の処方時は副作用や用量、飲み合わせなど看護師、主治医に確認を取り全職員に周知するようにしている</p>
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴を活かした支援はあまり出来ていない。楽しみ事も把握している物が少なく同じものの提供となる事が多い</p>
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナで外出制限があり行えていないケースが殆どである。誕生日など特別な日のみドライブなどは行っている</p>

自己評価		自己評価	
2023年8月			
外部	項目		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る軽度認知症の方が居られず紛失等の事故を防ぐ為にも職員が行っている。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあるで行っている。家族様の希望で電話など時間指定される事もあるが基本的には本人様の意思を尊重するよう支援している。また、耳が遠い方などは職員が仲介し家族様と会話できるようにしている。	
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は夜間帯以外は電気をつけ明るい雰囲気になっている。また季節の張り紙を一緒に作成し皆様がいつでも拜見できるように飾っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りこなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席をご利用者様同士の関係性を考えて配置したり、廊下にソファを設置し少人数で談笑出来る空間作りもしている	
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていた馴染みのある家具やお気に入りのものなどを入居の際に持って来て貰うようにしている。入居後のご本人様との会話で必要と感じられる物は家族様に相談し持参していただいている	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りではなく、いたるところに段差があるので手すりの設置やセンサーを用いている。	